

March 30, 2020

【前日の為替概況】ポンドドル、底堅い ドル売りの流れ継続

27日のニューヨーク外国為替市場でポンドドルは底堅い動き。ジョンソン英首相やハンコック英保健相が新型コロナウイルスに感染したと伝わると、英国株が急落しポンドにも売りが先行。一時1.2182ドル付近まで値を下げた。ただ、売り一巡後は買い戻しが優勢に。米連邦準備制度理事会（FRB）による無制限の量的緩和などを受けて、ドル需給のひっ迫に対する警戒感が後退しており、今週に入ってからドル売りの流れがこの日も継続。先週20日には約35年ぶりの安値となる1.1412ドルまで暴落したポンドドルだったが、今週は買い戻しが継続し一時1.2486ドルと13日以来の高値を付けた。

ドル円は続落。終値は107.94円と前営業日NY終値（109.58円）と比べて1円64銭程度のドル安水準だった。欧米株価の下落を背景に、投資家のリスク回避姿勢が強まると円買い・ドル売りが先行。FRBのバランスシートが5兆2500億ドルを超えて過去最高を更新する中、米追加緩和の可能性も意識されたためドルを売る動きが広がった。3月米消費者態度指数（ミシガン大調べ）確報値が89.1と速報値の95.9から悪化し、予想の90.0を下回ったこともドル売り圧力を高め、一時107.76円と日通し安値を付けた。

ユーロドルは5日続伸。終値は1.1141ドルと前営業日NY終値（1.1032ドル）と比べて0.0109ドル程度のユーロ高水準だった。ユーロ円やユーロスイスフランの下落につれた売りが先行し一時1.0954ドルと日通し安値を付けたものの、売り一巡後は一転上昇。米長期金利の低下に伴うユーロ買い・ドル売りが入ったほか、予想を下回る米指標が相場を下支えした。市場では「3月末を控えてドル資金確保のめどが付き、ドル売りにつながった」との声が聞かれ、一時1.1147ドルと17日以来の高値を更新した。

ユーロ円は続落。終値は120.29円と前営業日NY終値（120.91円）と比べて62銭程度のユーロ安水準。株安を背景に投資家がリスク回避姿勢を強め円買い・ユーロ売りが先行。23時30分過ぎに一時118.81円と日通し安値を更新した。ただ、売り一巡後はユーロドルの上昇につれた買い戻しが入り120.35円付近まで上げた。

米ドルカナダドルは「いつて来い」の展開。カナダ銀行（BOC、中央銀行）はこの日、緊急利下げを実施し、政策金利を現行の0.75%から0.25%に引き下げた。今月に入って利下げは3回目。これを受けてカナダドル売りが先行し、米ドルカナダドルは一時本日高値となる1.4154カナダドルまで値を上げた。WTI原油先物価格の下落も産油国通貨とされるカナダドルの売りを誘った。ただ、そのあとは米ドルが主要通貨に対して軟調に推移した流れに沿って米ドル安・カナダドル高が進行。カナダ政府が無制限の財政支援を表明したことも米ドル売り・カナダドル買いを誘い、4時過ぎに一時1.3922カナダドルまで値を下げた。

【本日の東京為替見通し】乱高下もドル円の上値は限られるか、南ア格下げでランドの動きも警戒

本日の東京市場のドル円の不安定な動きながらも上値は重い。引き続き明日31日の3月期末決算までは本邦勢のリパトリエーション（国外滞留資金の本国環流）のドル売りフローが、東京時間は上値を重くすることになりそうだ。また、FRBの追加緩和策への期待もドル売り要因として根強い。

新型コロナウイルスに関しては、週末に米国での感染者数が1万人以上増加し、13万9745人（死者2448人）まで急速に増加している。その中でトランプ米大統領の感染拡大の対策が迷走し、批判が強まっていることもドル売りの材料となりそうだ。先週の米国株は買い戻しが優勢となったが、週末は4日ぶりに反落している。買い戻しの調整が終わり、再び株式市場が売りトレンドに戻った場合はドル売りに拍車がかかりそうだ。

日本国内では西村経済再生担当相が昨日「ギリギリの状態」と発言しているように、今後もウィルスの感染拡大と、経済の停滞は免れないだろう。他国と比較しても、感染が早期に始まったのにもかかわらず、経済対策などを含めた対策が非常に遅いことで今後の経済の落ち込みがより深刻になる可能性はある。しかしながら、市場は現在感染が急拡大する米国に目がいつていることで、当面は日本売り＝円売りになるのはなかなか難しそうだ。

ドル円以外にもポンドをはじめ欧州通貨が大きな動きを見せている。ジョンソン英首相が新型コロナウイルスに感染したのにもかかわらずポンドの売りが限られた。日本同様に欧州のウィルス感染拡大や経済の停滞など不安要素は多いが、当面の欧州通貨は対ドルでは下値が限られそうだ。

また、ランドの動きには要注意となる。先週引け後に格付け会社ムーディーズが南アの格下げを発表し、

これで3大格付け会社のすべてが南アを投資不適格（ジャンク債）にした。この影響でFTSE世界国債インデックスなど様々なインデックスから排除されることになることで、南アからの資金流出がより一層進みそうだ。すでに早朝時点でランドは対ドルと対円ともに史上最安値を更新している。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 15:00 ◇ 2月南アフリカマネーサプライ M3（予想：前年比 6.70%）
- 16:00 ◇ 3月スイス KOF 景気先行指数（予想：85.0）
- 17:30 ◇ 2月英消費者信用残高（予想：11 億ポンド）
- 17:30 ◇ 2月英マネーサプライ M4
- 18:00 ◎ 3月ユーロ圏消費者信頼感指数（確定値、予想：▲11.6）
- 18:00 ◎ 3月ユーロ圏経済信頼感指数（予想：93.0）
- 21:00 ◎ 3月独消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比 0.1%/前年比 1.4%）
- 23:00 ◎ 2月米住宅販売保留指数（仮契約住宅販売指数、予想：前月比▲2.0%/前年比なし）
- 欧州が 29 日から夏時間に移行済み

31 日

<国内>

- 08:30 ◎ 2月東京都区部消費者物価指数（CPI、生鮮食料品除く総合）
- 08:30 ◎ 2月完全失業率
- 08:30 ◎ 2月有効求人倍率
- 08:50 ◇ 2月商業販売統計速報（小売業販売額）
- 08:50 ◎ 2月鉱工業生産速報

<海外>

- 06:45 ◎ 2月ニュージーランド（NZ）住宅建設許可件数
- 08:01 ◇ 3月英消費者信頼感指数（Gfk 調査）
- 09:00 ◇ 3月 NBNZ 企業信頼感
- 10:00 ◎ 3月中国製造業購買担当者景気指数（PMI）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

27日 06:41 トランプ米大統領

「米下院は経済対策をすぐに可決すべき」

「G20 会合では新型コロナウイルスの情報、データ共有の重要性を協議」

「中国とさらなる通商合意は可能だが、米大統領選を待つ必要も」

「新型コロナウイルスのために8月にノースカロライナ州シャーロットで予定されている共和党全国大会を中止するつもりはまったくない」

「習・中国国家主席とコロナウイルスについて協議し、中国は強い理解」

「中国国家主席に敬意を表する(Much respect!)」

27日 22:42 ポロズ・カナダ銀行(中央銀行、BOC)総裁

「この決定は金融システムをサポートし、正常に戻るための基盤を築くこと」

「国債購入は債券市場の緊張緩和の助けになる」

「必要に応じてさらなる行動を起こす準備がある」

「(金利)ゼロを下回るのは無意味」

「これはおそらく下限」

「我々の行動で市場機能は改善したが緊張が続いている」

「CP 市場は事実上凍結されている」

※時間は日本時間

27日 06:54 ルッテ・オランダ首相

「EU 首脳は欧州安定メカニズム(ESM)や他の手段の詳細について合意できなかった」

27日 09:20 安倍首相

「新型コロナウイルスの感染拡大によるマグニチュードに見合うだけの強大な財政政策を講じていかなければならない」

「新型コロナウイルスのワクチン、実用化に秋ごろとの意見もあるが通常は1年後」

27日 14:45 習中国国家主席

「中国は米国を支援する用意」

27日 16:58 モリソン豪首相

「(新型コロナウイルス感染で)次第に帰国者のリスク増している」

「帰国者の2週間隔離を義務付け」

「(新型コロナウイルス感染で)次第に帰国者のリスク増している」

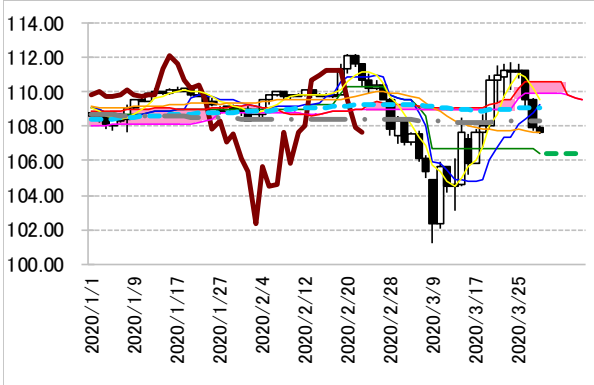
「帰国者の2週間隔離を義務付け」

27日 21:44 ポスティック米アトランタ連銀総裁

「1-3 月期は横ばい、4-6 月期はマイナス成長を予測」

「7-9 月期を予測するのは非常に難しい」

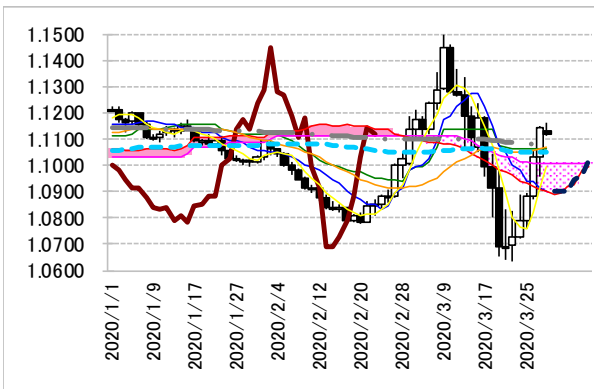
〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円=21日線とともに戻し、200日線を回復できるか>

陰線引け。緩やかに低下する90日移動平均線を割り込み、サポートが期待された上昇中の一目均衡表・転換線も下抜けた。転換線は明日 109.64 円まで上昇したところで頭打ちとなる見込み。戻りを抑えることになりそう。ただ、現水準付近に踏み止まることができれば、まだ低下中の21日移動平均線も現水準 107 円台で明日にも底打ちする可能性がある。同線とともに相場が持ち直し、108.33 円前後で横ばいの200日線を回復できるかを、まずは見定める局面。深押しとなった場合は、106.45 円で今後は横ばいとなる公算の一目・基準線が支えとなるか。

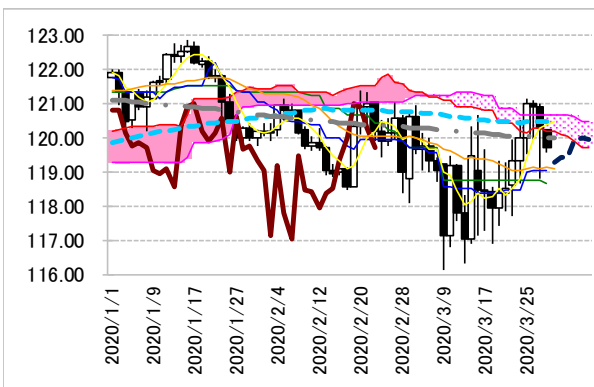
レジスタンス 1	109.04(90日移動平均線)
前日終値	107.94
サポート 1	107.23(ピボット・サポート 1)
サポート 2	106.45(日足一目均衡表・基準線)



<ユーロドル=下限に転換線も控える雲がサポート>

下影陽線引け。一目均衡表・雲の抵抗を上抜け後、いったん売り圧力にさらされたものの、雲の中へ戻ったところでは底堅く、16日以来の1.11ドル台での引けとなった。まずは一目・基準線 1.1066 ドルや 1.1050 ドル前後で推移する90日移動平均線付近が下支えのポイントとなりそう。同水準を割り込んでも、下限で一目・転換線も併せて支えとなりそう。雲はサポートとなりそう。

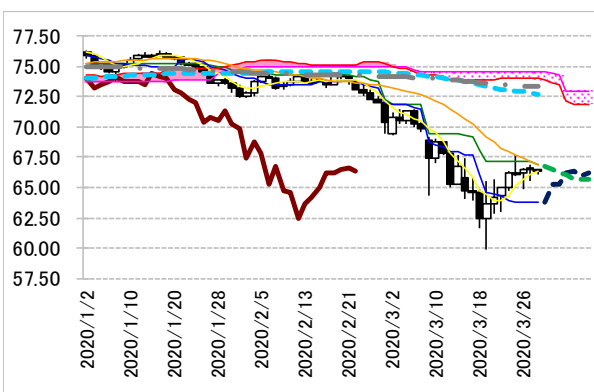
レジスタンス 1	1.1208(ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	1.1141
サポート 1	1.1050(90日移動平均線)



<ユーロ円=転換線付近での底堅さ想定>

下影陰線引け。118.81 円まで大きく下振れ後、120 円台まで戻したが、一目均衡表・雲の抵抗をこなさきれていない。週明けも 120.18 円へ低下した雲の下限前後で売り圧力にさらされており、さえない推移。先週末に一目・転換線 119.03 円を下回ったところから反発したこともあり、上昇傾向の同線付近で下支えされて戻す展開が続くと予想する。

レジスタンス 1	120.67(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	120.29
サポート 1	119.03(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=基準線-転換線が交差する水準に収れんへ>

下影小陽線引け。5日移動平均線とともに66円台で戻りを試し、本日 66.91 円へ低下した一目均衡表・基準線に近づいた。しかし、その付近で低下中の21日線も抵抗となりそう。この水準の克服は難しいか。基準線と転換線がやがて交差する見込みの66.06-66.18円付近へいったん収れんする展開を想定する。

レジスタンス 1	66.91(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	66.54
サポート 1	65.49(3/27 安値)

